

権利者のコンテンツ流通へ向けた 取り組みと現状の課題

2011.03.11

JASRAC業務本部

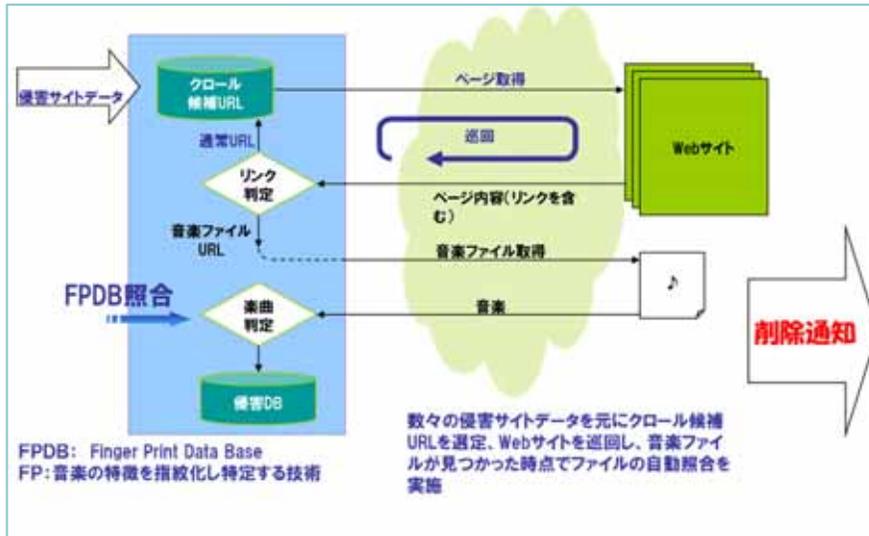
大橋健三

1. 権利者のコンテンツ不正流通（違法）対策 取り組みと経緯

音楽著作権分野

【自主対策】

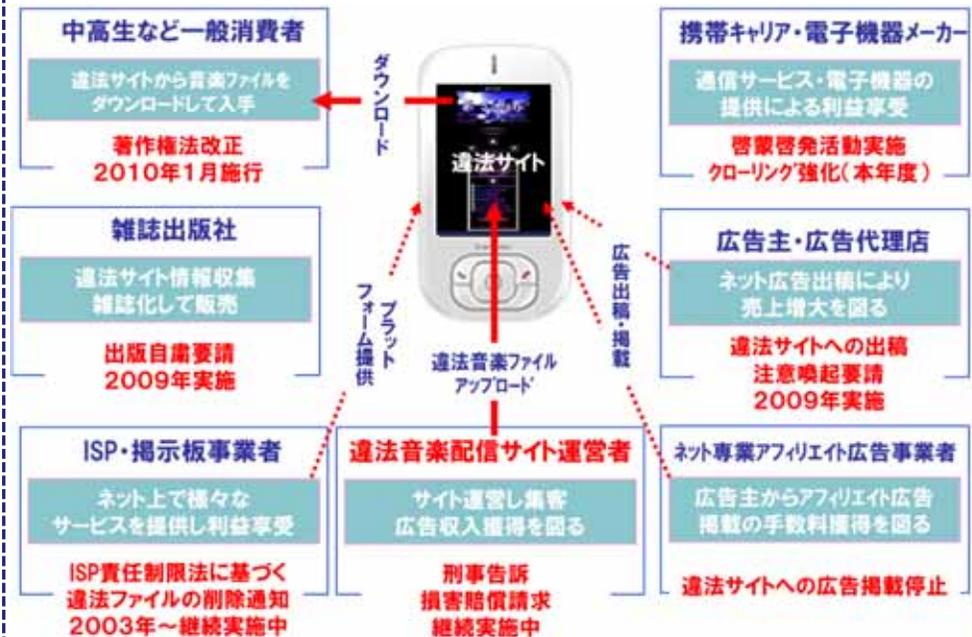
クローリング 削除通知 2003年～



P2P ネットワーク 侵害検知 2005年～

- 2005年9月 P2P利用者の独自の情報収集約456万件のIPアドレスを検知
- 2006年3月 教育機関への侵害事実(Winny等の利用による音楽のファイル共有)の指摘と侵害防止対策の強化を継続して要請
- 2007年度 CCIF「ファイル共有ソフトを悪用した著作権侵害対策協議会」
<http://www.ccif-j.jp/>

【違法音楽サイトに関する事業者との協力・関連省庁との連携による取り組み】



- 後追いの対策には限界がある
- アップロードへの抜本的な対策

2. 権利者のコンテンツ流通促進への取り組み

音楽著作権分野

日本のデジタルコンテンツ流通は今後更に拡大

- データ数の急拡大
- 複数の著作権管理事業者

利用者、権利者共に処理能力の限界

楽曲コードを特定するためのコスト・作業負荷が増大

無許諾利用のリスクが増大（配信事業者）

市場拡大・利用促進のボトルネックとなっている



音楽配信事業者（CP）・著作権管理事業者双方の円滑な処理を
推進するための共通インフラが必要

CDC 設立 『権利処理の基盤整備』

2007
問題顕在化



2008
検討開始



2009
CDC 設立



2010
運用開始

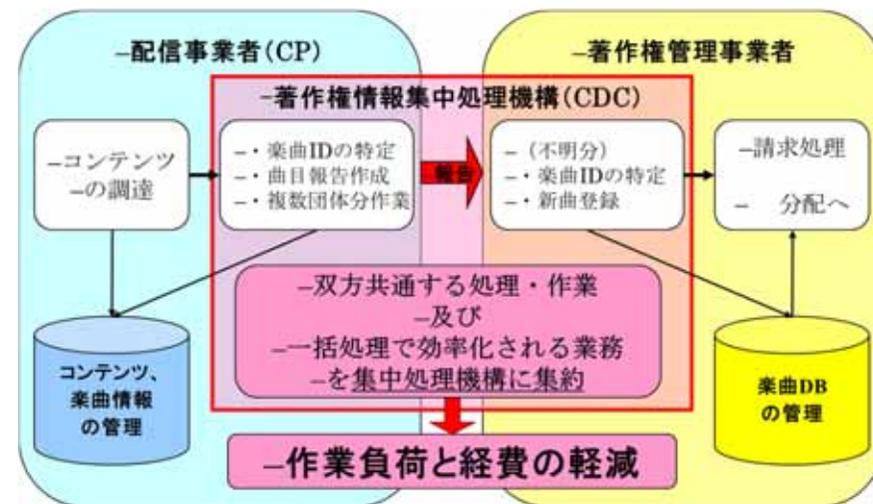
3. 権利者のコンテンツ流通促進への取り組み

音楽著作権分野 CDC 概要



- ・ 著作権管理事業者・配信事業者の双方が協力
- ・ 非営利の社団法人

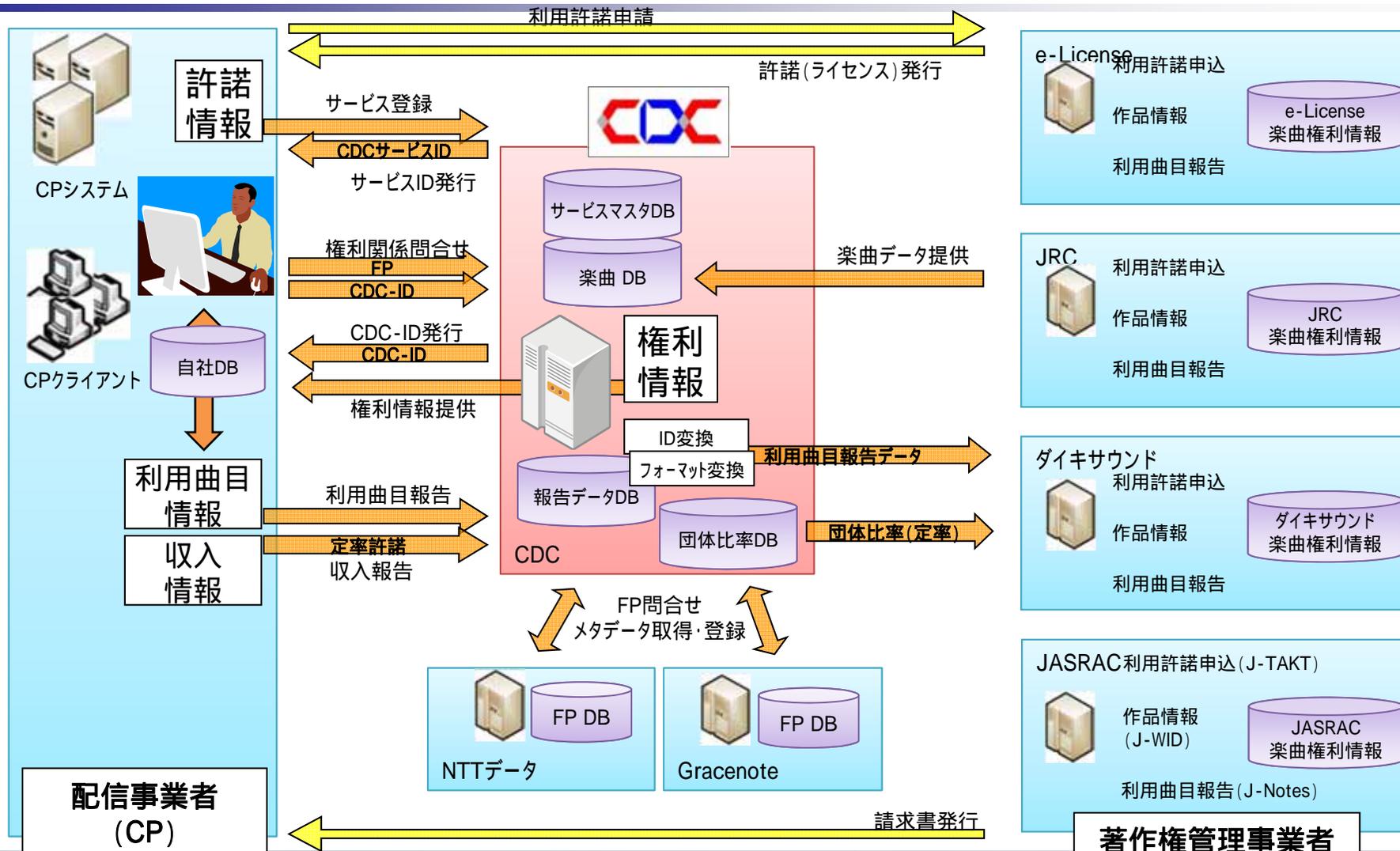
・ 共通作業の集約



・ コンテンツ照合技術を用いた新たなシステム構築

システムの概要

4. CDCシステムの概要



5. コンテンツ不正流通（違法）対策 音楽分野における現状の課題

違法サイト対策

違法アップロード
させない環境構築

違法アップロード
を無力化するビジ
ネスモデルの構築
EX;クラウドモデル

クローリングやコ
ンテンツ照合技術
を収益化
【MONETIZE】

コンテンツ照合技術を共通インフラとしてアップロードを
ブロックする方策の検討。

違法ファイルを無力にするもしくは意味のないモデルを構
築する。 クラウド・DRM・機器認証

違法ファイルの検知を削除だけで終わらせない権利者側の
新たなモデル EX;動画共有サイトなどのUGM許諾

スマートフォン

寄生型
アプリケーション

まとめ検索
アプリケーション

個人認証と
課金モデル

権利者やコンテンツホルダーに一銭もいかない寄生虫がごときアプ
リケーションが氾濫しつつある。正規サービス事業者にも脅威。

ネットワークのすべての違法ファイルを探してこれを瞬時に提供す
るアプリケーション

コンテンツ産業が成長するためにはネットワーク機器を利用した正
確な個人認証と課金モデルが重要。一方で機器販売時のコンテンツ
利用のサービスに対して課金するモデルも出始めている。